

## 「イスカリオテのユダの最期」

2016年02月09日

**使徒言行録 1 章 15 節～20 節。** そのころ、ペトロは兄弟たちの中に立って言った。百二十人ほどの人々が一つになっていた。「兄弟たち、イエスを捕らえた者たちの手引きをしたあのユダについては、聖霊がダビデの口を通して預言しています。この聖書の言葉は、実現しなければならなかったのです。ユダはわたしたちの仲間の一人であり、同じ任務を割り当てられていました。ところで、このユダは不正を働いて得た報酬で土地を買ったのですが、その地面にまっさかさまに落ちて、体が真ん中から裂け、はらわたがみな出てしまいました。このことはエルサレムに住むすべての人に知れ渡り、その土地は彼らの言葉で『アケルダマ』、つまり、『血の土地』と呼ばれるようになりました。詩編にはこう書いてあります。『その住まいは荒れ果てよ、／そこに住む者はいなくなれ。』／また、／『その務めは、ほかの人が引き受けるがよい。』」

復活した主イエスから、聖霊が降る時までエルサレムを離れず待ちなさいと言われて、待った仲間は 120 人ほどであったと記されている。この人数については確証する術がない。イスラエル人が完全数とした 12 の 10 倍としたのではないか。120 人の仲間の前で、ペトロは立ち上がって話し始めた。「兄弟たち、イエスを捕らえた者たちの手引きをしたあのユダについては、聖霊がダビデの口を通して預言しています。この聖書の言葉は、実現しなければならなかったのです。ユダはわたしたちの仲間の一人であり、同じ任務を割り当てられていました。」ユダは私たちの仲間の一人で、同じ宣教の任務を割り当てられていたが、神殿当局に主イエスを手引きした。ユダの裏切りは彼の自由意思によるものであったが、旧約聖書の預言であり、実現しなければならなかった。ペトロはユダの裏切りを「神の必然」とし、弟子として選ばれたことも「神意」であったと捉えている。

ペトロは続いて語っている。ユダは主イエスを売り渡して得たお金で、土地を買ったが、その地面にまっさかさまに落ち、体が真ん中から裂け、はらわたがみな出てしまった。マタイ福音書 27 章 5 節には「首をつって死んだ」とだけ書かれている。使徒言行録は、迫害者や悪人の死に方を文学的な表現で描き、悲惨な死に方であったと書いている。初代教会において、主イエスを裏切ったユダに対する憎しみが増幅したのであろう。ユダの自殺はエルサレム中に知れ渡り、ユダが買った土地はアラム語で「アケルダマ」、その意味は「血の土地」と呼ばれている。更に、詩編 69 編 26 節から引用し、その地は荒れ果て住む者もいなくなったと荒廃を述べている。

マタイ福音書 27 章には下記のように書いている。ユダは神殿当局と交渉し、主イエスを銀貨 30 枚で手引きしたが、十字架刑の判決が下ったことを知り、後悔した。「わたしは罪のない人の血を売り渡し、罪を犯しました」と言い、銀貨を返そうとした。当局は「我々の知ったことではない。お前の問題だ」と、血の代金だから神殿の献金にできないと受け取らなかった。ユダは銀貨を神殿に投げ込んで、首をつって自殺した。当局は「陶器職人の畑」を買い、外国人の墓地（無縁仏の墓）にした。この畑は「血の地所」と言われている。初代教会が憎んだユダの最期については、実際には定かでない。聖書の預言の成就に用いられたユダもまた主イエスの十字架の赦しに与っていることは確かである。

ペトロは詩編 109 編 8 節の「地位は他人に取り上げられ」を「その務めは、ほかの人が引き受けるがよい」と意識し、ユダの任務を新しい使徒に引き受けさせると語っている。